

令和 5(2023)年度 事業報告書

(令和 5(2023)年 4 月 1 日から令和 6(2024)年 3 月 31 日まで)

1 概要

本財団は 1945 年 4 月 4 日に財団法人海洋化学研究所（文部省所管）として設立され、2012 年 4 月 1 日に一般財団法人海洋化学研究所（京都府所管）へ移行し、2016 年 9 月 1 日からは、公益認定を得て一般財団法人から京都府所管の公益財団法人となり、2017 年 12 月 21 日からは、変更認定を得て内閣府所管の公益財団法人となった。

本財団は、事業目的である「海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発展を図ることを目的」として（公 1）～（公 3）の事業を行う。

賛助会員の数は、個人会員が 92 名、学生会員が 12 名、法人・団体会員が 5 法人である（令和 6 年 3 月 31 日現在）。

法人の主たる事務所は、京都府宇治市の京都大学化学研究所内に置く。その他の事務所はない。

法人の役員は、評議員 4 名、理事 5 名、監事 2 名である。

法人の職員は、常勤職員が 1 名である。

2 （公 1）学術助成金の事業

海洋化学に関する研究、助成および奨励をなしその発展を図るため、その分野における研究者に学術助成金を支給する事業を行った。

助成金の種類は、以下の 2 種類である。

ア 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、研究助成金。以下、「研究助成金」と言います。

金額 1 件 150 万円以下 年数件

イ 海洋化学に関する研究者（大学院生以上の学生も含む。）向けの、海外の大学、研究機関、学会、シンポジウム等への海外渡航費に関する助成金。以下、「海外渡航費に関する助成金」と言います。

金額 1 件 30 万円以下 年数件

これに基づき、助成金への応募を、2023年11月11日から2024年2月2日まで、財団のホームページ、及び、本財団発行の研究所報「海洋化学研究」を用いて、呼びかけた。

本助成金の受領者などを決める選考委員会のメンバーは、以下の6名である。

加藤義久(東海大学名誉教授)

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

廣瀬勝己(元気象庁気象研究所地球化学研究部部長)

蒲生俊敬(東京大学名誉教授)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

2024年2月17日、選考委員会が開催され令和6年度助成金の受領者の選考答申が行われ、この答申結果は、2024年3月16日に理事会にて承認された。助成金の受領者は、以下のとおりである。

ア 研究助成金 (5名、合計 5,529千円)

課題番号	代表者氏名	代表者所属・職名	研究題目	助成金額(千円)
R6-R1	高巢裕之	長崎大学総合生産科学域・准教授	大槌湾における堆積物およびその間隙水中における窒素化合物の分布	820
R6-R2	井上睦夫	金沢大学環日本海域環境研究センター・准教授	2023年の ¹³⁴ Cs分布が示す北太平洋北西域の溶存物質循環	1,137
R6-R4	橋濱史典	東京海洋大学学術研究院・准教授	異常昇温に伴う溶存有機物分解特性の解明	1,275
R6-R7	千賀有希子	東邦大学理学部化学科・准教授	富栄養化した干潟における海藻優占種のレジームシフトと水質変動	1,022
R6-R8	栗栖美菜子	国立研究開発法人海洋研究開発機構海洋機能利用部門・研究員	グリーンランド南東ドームアイスコアから復元する産業革命以降の大気中の微量金属元素の沈着量・同位体比・化学形態の変化	1,275
小計				5,529

イ 海外渡航費に関する助成金（2名、合計480千円）

課題番号	代表者氏名	代表者所属・職名	渡航目的・渡航先	助成金額（千円）
R6-T1	松岡航平	京都大学理学研究科化学専攻・博士後期課程2回生	シカゴ(イリノイ, アメリカ)で行われる Geochemistry の国際会議である Goldschmidt2024 への参加 発表題目: Isotope ratio anomalies of dissolved Mo and W caused by hydrothermal activities in the subduction zones, the Izu Ogasawara Arc and the Okinawa Trough 渡航先: シカゴ(イリノイ, アメリカ)	270
R6-T2	Rodrigo Mundo	金沢大学自然科学研究科物質化学専攻・博士2年生	The 16th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (https://indico.ihep.ac.cn/event/20503/) に出席し、長期間放射性核種 129 ヨウ素から見たオホーツク海南部に出現する冷水帯の形成メカニズムについて発表する事 渡航先: 桂林 (Guilin)、中国	210
小計				480

3 (公2) 学術講演会の事業

海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなしその発展を図るために、その分野における第一人者を招き、京都府内において、広く一般人にも開かれた講演会を開催する事業である。

以下の講演会を実施した。

第43回石橋雅義先生記念講演会

令和5年4月22日(土)午後1時30分～午後5時、京都大学楽友会館にて開催。共催日本分析化学会近畿支部。出席者53名。

まず、講演会に先立って以下の者に、学術賞及び奨励賞を与えた。

第38回海洋化学学術賞受賞を近畿大学理工学部・教授 中口讓 氏に授与

第7回海洋化学奨励賞(U40)を京都大学化学研究所附属バイオイオンフォマテ

イクスセンター・准教授 遠藤寿 氏, ならびに, 名古屋大学大学院環境学研究科大気水圏科学系・講師 山崎敦子 氏に授与

第 7 回海洋化学奨励賞 (U30) を高知大学海洋コア総合研究センター・助教 田中えりか氏に授与

続いて、4 名の受賞者が講演を行った。演題、講演者は以下のとおり。

第 38 回海洋化学学術賞受賞記念講演

- 「微量必須元素に関する生物地球化学的研究」 近畿大学理工学部教授 中口 譲
- 第 7 回海洋化学奨励賞 (U40) 受賞記念講演
「分子生物学手法を用いた海洋生物地球化学循環の研究」 京都大学化学研究所附属バイオイオンフォマティクスセンター准教授 遠藤 寿

「サンゴ骨格を用いた低緯度域の表層海洋における栄養塩指標の開発」 名古屋大学大学院環境学研究科大気水圏科学系講師 山崎敦子

第 7 回海洋化学奨励賞 (U30) 受賞記念講演

- 「海底堆積物に記録された堆積環境の復元と海底鉱物資源の形成メカニズム」 高知大学海洋コア総合研究センター助教 田中えりか

77 周年秋季講演会

令和 5 年 11 月 11 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時, 京都大学楽友会館にて開催。出席者 38 名。

- ネオジウム同位体比による新たな産地同定手法 ―地球化学分野における化学トレーサーの異分野への展開― 弘前大学被ばく医療総合研究所・准教授 田副博文
- 「高知市中心部における降下物の化学成分の解析」 高知県立大学・名誉教授 一色健司

京都化学者クラブ講演会

楽友会館にて開催。化学という分野に着目した、市民向けの学術講演会。「化学者クラブ」という名称であっても、別に「化学者クラブ」との団体があるわけではない。

年	月日	題目	講演者	所属
2023	4月1日	マテリアルズ・インフォマティクス (MI) の動向：材料開発は AI によってどのように変わるのか	岡本昌彦	京都大学学術研究展開センター理工系部門・副部門長リサーチ・アドミニストレーター (上席)
2023	5月13日	Formation of authigenic calcium carbonate on the ocean floor below the compensation depth	Pinghe Cai	Professor, Department of Marine Chemistry and Geochemistry, Xiamen University
2023	6月3日	COVID-19 重症化と血清亜鉛値の連関解析	安井裕之	京都薬科大学代謝分析学分野教授
2023	7月1日	紫外線による分析前処理の基礎検討と溶存態リン化学種のスペシエーションへの応用	横井邦彦	大阪教育大学名誉教授
2023	8月5日	地下水の涵養域・滞留時間の推定法ー水質, 同位体等を利用した調査の紹介ー	藪崎志穂	総合地球環境学研究所研究基盤国際センター
2023	9月2日	生物学研究を通して思うこと、そしてこれから	梅田真郷	京都大学名誉教授
2023	10月7日	湖沼行脚を振り返る	中西正己	京都大学名誉教授
2023	12月2日	持続的なアマモ場創出技術と診断法の開発	楠部真崇	和歌山工業高等専門学校生物応用化学科教授
2024	2月3日	測定値の不確かさに関する間違いと混乱について	河合潤	京都大学名誉教授
2024	3月2日	プレート沈み込み帯の鉱床形成～日本を例に～	石田美月	関西学院大学学部研究員

4 (公3) 学術情報提供の事業

海洋化学に関する学術情報の流通を促すことで、海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発達を図るべく、学術研究誌出版事業としての「海洋化学研究」の発行、及び、本財団のホームページ運営を行った。

併せて、刊行した「海洋化学研究」をデジタルアーカイブ化している。

海洋化学研究 (第 36 巻 1 号) を 2023 年 4 月 22 日に発行。内容は、以下のとおりである。

ページ	種類	タイトル	著者
1	巻頭言	海洋化学の発展を願って	廣瀬勝己
3	総合論文	瀬戸内海における海洋化学研究—光化学反応を中心に	佐久川 弘
12	総合論文	黄砂によって長距離輸送されるバイオエアロゾルの生態学的特徴	牧 輝弥
20	月例卓話	葡萄の美酒：科学と文化	左右田 健次
27	月例卓話	化学反応で考える海底金属資源の形成過程	石橋 純一郎
34	月例卓話	富栄養化した干潟における微生物的窒素除去・貯留過程	千賀 有希子
41	月例卓話	同位体比分析による月形成過程の解明	岡林 識起
46	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	高野祥太郎
48	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	小畑 元
51	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	高巢裕之
53	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	漢那直也
57	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	Wong Kuo Hong
60	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	鄭 臨潔
63	学術助成報告	令和 4 年度伊藤光昌氏記念学術助成金（海外渡航助成）成果報告書	松岡航平

海洋化学研究（36 巻 2 号）を 2023 年 11 月 11 日に発行。内容は、以下のとおりである。

79	巻頭言	海洋化学への期待	太田裕之
81	第38回海洋化学学術賞(石橋賞)受賞記念論文	微量必須元素に関する生物地球化学的研究	中口讓
92	第7回海洋化学奨励賞受賞記念論文	分子生物学手法を用いた海洋生物地球化学循環の研究	遠藤寿
101	第7回海洋化学奨励賞受賞記念論文	サンゴ骨格を用いた低緯度域の表層海洋における栄養塩指標の開発	山崎敦子
113	第7回海洋化学奨励賞受賞記念論文	海底堆積物に記録された堆積環境の復元と海底鉱物資源の形成メカニズム	田中えりか
123	月例卓話	マイクロ波化学を楽しもう! 第七章—マイクロ波発振器について—	岸原充佳・松村竹子
127	月例卓話	ジオパークの教育的活用—地学教育の普及を目指して—	亀田 直記
131	月例卓話	マテリアルズ・インフォマティクス(MI)の動向:材料開発はAIによってどのように変わるのか	岡本 昌彦
140	月例卓話	Formation and preservation of calcium carbonate on the deep North Pacific Ocean floor driven by illite weathering	Pinghe Cai
145	月例卓話	紫外線による分析前処理の基礎検討と溶存態リン化学種のスペシエーションへの応用	横井 邦彦

本財団のホームページ運営事業においては、「海洋化学研究」の掲載論文をホームページからも見られるようにし（海洋化学研究第1巻から第36巻までのすべての論文をオープンアクセス化）、また、財団からのお知らせ（助成金・講演会・出版等）も掲載した。URLは、<http://www.oceanochemistry.org/>

以上

令和 5(2023)年度
事業報告書の附属明細書

(令和 5(2023)年 4 月 1 日から令和 6(2024)年 3 月 3 1 日まで)

本年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありません。

以上